第 16 講　イスラーム世界の分裂①
第 17 講　イスラーム世界の分裂②

【アッバース朝】アリーの子フサインとササン朝ペルシアの最後の王ヤズドギルド３世の娘が夫婦だったという伝承があった。だからイランのホラサーン地方にはシーア派が多かった。同地でシーア派を取り込んで挙兵しウマイヤ朝を倒し(1)〔　　〕（(2)〔　　〕～(3)〔　　〕年）を樹立したのが(4)〔　　〕だ。２代目のカリフの(5)〔　　〕は新たな世襲カリフ制を成立させるためにシーア派を粛清し新都(6)〔　　〕（別名(7)〔　　〕，平安の都）を(8)〔　　〕河畔に建設した。

アッバース朝はムハンマドと血筋が近いためカリフ権を強化しやすく当初は中央集権化が進んだ。宰相を**ワズィール**，地方の総督を**アミール**といった。５代目の(9)〔　　〕がアッバース朝の最盛期で，彼と彼の統治下のバグダードは『(10)〔　　〕』に登場する。またフランク王国の**カール大帝とは使節を交換**した。９世紀にアッバース朝は黒人農業奴隷**ザンジュの乱**で動揺した。９世紀のカリフのマームーンの時にバグダードに建設された学問研究所が(11)〔　　〕でプラトン・アリストテレスの**ギリシア語文献のアラビア語への翻訳・研究**が行われた。単語を覚えよう。(12)〔　　〕は俸給。(13)〔　　〕は総督。(14)〔　　〕は教団・共同体。(15)〔　　〕は人頭税。(16)〔　　〕は聖戦。(17)〔　　〕は非ムスリム。(18)〔　　〕はイスラーム教徒。(19)〔　　〕とは神への絶対的帰依。(20)〔　　〕は地租。(21)〔　　〕は非アラブ人ムスリム。(22)〔　　〕は宰相。(23)〔　　〕は聖遷。(24)〔　　〕はイスラーム法学者。(25)〔　　〕は市場。(26)〔　　〕は隊商宿。(27)〔　　〕は光塔。

アッバース朝は**ムスリム平等主義で，アラブ人とマワーリーいずれもジズヤは免除でハラージュは支払った。ゆえにイスラーム帝国**といわれる。アッバース朝ができた時ウマイヤ家のアブド＝アッラフマーン１世は北アフリカをイベリア半島まで逃げ切り，現スペイン南部(28)〔　　〕を都にウマイヤ朝を継続した（(29)〔　　〕）。北アフリカの(30)〔　　〕に興った(31)〔　　〕は，エジプトに移り(32)〔　　〕を建設し現在のイスラームの最高学府(33)〔　　〕をつくった(34)〔　　〕派（**イスマーイール派＝7イマーム派**）の王朝。イェルサレムをめぐってセルジーク朝と抗争した。カリフを宣言し（**中カリフ国**），北アフリカ全体に版図を拡げたので，脅威を感じた現スペイン・コルドバの後ウマイヤ朝の(35)〔　　〕はカリフを宣言した（**西カリフ国**，(36)〔　　〕派）。後ウマイヤ朝は 11 世紀に

解答

（１）アッバース朝　（２）750　（３）1258　（４）アブー＝アル＝アッバース
（５）マンスール　（６）バグダード　（７）マディーナ＝アッサラーム　（８）ティグリス
（９）ハールーン＝アッラシード　(10) アラビアンナイト
(11) 知恵の館（バイト＝アルヒクマ）　(12) アター　(13) アミール　(14) ウンマ
(15) ジズヤ　(16) ジハード　(17) ジンミー　(18) ムスリム　(19) イスラーム
(20) ハラージュ　(21) マワーリー　(22) ワズィール　(23) ヒジュラ　(24) ウラマー
(25) スーク　(26) キャラバンサライ　(27) ミナレット　(28) コルドバ
(29) 後ウマイヤ朝　(30) チュニジア　(31) ファーティマ朝　(32) カイロ
(33) アズハル学院　(34) シーア　(35) アブド＝アッラフマーン３世　(36) スンニー

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

内紛で衰退し滅亡した。「**10世紀はシーア派の世紀**」。(37)〔　　〕年にアッバース朝（**東カリフ国**，(38)〔　　〕派）の都(39)〔　　〕に入城したのが，イラン系の(40)〔　　〕派（(41)〔　　〕派）の(42)〔　　〕だ。アッバース朝のカリフから権力を奪った。アラブ系の初期イスラーム時代，軍人は(43)〔　　〕（俸給）制だったが，ブワイフ朝では(44)〔　　〕という**徴税権を有力者に与える制度**に移行した。(45)〔　　〕年には，中央アジアのシル川流域から興った(46)〔　　〕派のトルコ系セルジューク族がメルブを都とした後(47)〔　　〕に率いられ**バグダードに入城し，ブワイフ朝を打倒しアッバース朝のカリフから**(48)〔　　〕**（権力者，判断者）の称号を得た**。セルジューク朝は(49)〔　　〕の時が最盛期でそのイラン人宰相の(50)〔　　〕はイクター制を継承し各地にスンニー派の(51)〔　　〕（学院），(52)〔　　〕をつくって神学者(53)〔　　〕を招いた。スルタン，アルプ＝アルスラーンの時の(54)〔　　〕年の(55)〔　　〕の戦いではビザンツ帝国を破った（ビザンツ帝国・十字軍の項を参照）。セルジューク朝の流れを組む王朝でイスラーム勢力として初めて組織的戦いを十字軍に挑んだのが(56)〔　　〕**朝**。　セルジューク朝は諸勢力との抗争で分裂，小アジアの(57)〔　　〕**朝**，中央アジア～西アジアは(58)〔　　〕に継承された。ホラズムは13世紀に(59)〔　　〕に滅ぼされた(60)〔　　〕系イスラーム王朝だ。

【イベリア半島・マグリブ地方】(61)〔　　〕とは「**太陽の沈む所**」の意。北アフリカのチュニジア・アルジェリア・モロッコがマグレブ３国だ。(62)〔　　〕の世界で彼らはヨーロッパ人からは(63)〔　　〕と呼ばれた。８～９世紀にモロッコの**フェズ**に建てられた**イドリース朝**は最古の(64)〔　　〕派だ。**11世紀に現モロッコ**の(65)〔　　〕にできた(66)〔　　〕派の(67)〔　　〕朝は(68)〔　　〕年にサハラ砂漠の(69)〔　　〕を攻略した。イベリア半島ではキリスト教徒の(70)〔　　〕と対決した。ムラービト朝を滅ぼしたのが(71)〔　　〕朝で，都も系統も宗派もムラービト朝と同じ。

スペイン最後のイスラーム王朝は(72)〔　　〕系(73)〔　　〕朝(74)〔　　〕王国。(75)〔　　〕が中心。資料集の写真をしっかり眺めよう。(76)〔　　〕年に**アルハンブラ宮殿をスペインに無血開城**（むけつかいじょう）し，**レコンキスタ（国土回復）運動は完成**した。

解答

(37) 946　(38) スンニー　(39) バグダード　(40) シーア　(41) 12イマーム
(42) ブワイフ朝　(43) アター　(44) イクター制　(45) 1055　(46) スンニー
(47) トゥグリル＝ベク　(48) スルタン　(49) マリク＝シャー　(50) ニザーム＝アルムルク
(51) マドラサ　(52) ニザーミーヤ学院　(53) ガザーリー　(54) 1071
(55) マンジケルト　(56) ザンギー　(57) ルーム＝セルジューク　(58) ホラズム＝シャー朝
(59) チンギスハン　(60) トルコ　(61) マグレブ　(62) ベルベル人　(63) ムーア人
(64) シーア　(65) マラケーシュ　(66) スンニー　(67) ムラービト　(68) 1076
(69) ガーナ王国　(70) レコンキスタ運動　(71) ムワッヒド　(72) アラブ
(73) ナスル　(74) グラナダ　(75) アルハンブラ宮殿　(76) 1492

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【エジプト】アラブ系シーア派のファーティマを滅ぼしたのは 12 世紀の (77)〔　　〕派の (78)〔　　〕朝だ。都は (79)〔　　〕。建国者 (80)〔　　〕は (81)〔　　〕人だ。アイユーブ朝を倒したのは (82)〔　　〕系の (83)〔　　〕朝。都は (84)〔　　〕。(85)〔　　〕はモンゴル軍撃退の英雄だ。アッバース朝がチンギスハンの孫 (86)〔　　〕に滅ぼされた直後にカリフの家族を庇護（ひご）したので，そのうちカリフを称するようになった。マムルーク朝のカイロはイスラーム世界の中心地になり**『千夜一夜物語（アラビアンナイト）』はここで完成**した。(87)〔　　〕年にマムルーク朝が**十字軍の最後の拠点**（きょてん） (88)〔　　〕を陥落（かんらく）させた。この時期 (89)〔　　〕がインド洋で活躍した。紅海（こうかい）の入り口 (90)〔　　〕が彼らの拠点の一つ。1509 年の (91)〔　　〕海戦では (92)〔　　〕の (93)〔　　〕に敗れたマムルーク朝は (94)〔　　〕年に (95)〔　　〕に征服された。

【中央アジア】トルコ人の原郷は**バイカル湖とバルハシ湖の間のアルタイ山脈**付近。現在，中国・ロシア・カザフスタン・モンゴルにまたがる地域だ。トルコ人は漢代の中国では (96)〔　　〕などで表記され，隋から唐にかけては**鉄勒**（てつろく），(97)〔　　〕（この２つの派生語がテュルク→トルコ），唐の半ばからは (98)〔　　〕として活躍した。ウイグルの宗教は (99)〔　　〕だったが，その一派が西進しイスラーム化し初のトルコ系イスラーム王朝 (100)〔　　〕をシルクロードの天山北路に建てた。都は**ベラサグン**。

(101)〔　　〕海に注ぐ (102)〔　　〕川と (103)〔　　〕川の間が (104)〔　　〕だ。この地域で最初にアッバース朝から独立したのが**ターヒル朝**。そこから自立したのが**サッファール朝**。サッファール朝から自立したのが，９～10 世紀に成立した (105)〔　　〕系イスラーム王朝が (106)〔　　〕で，建国後，(107)〔　　〕に遷都し，トルコ人傭兵奴隷 (108)〔　　〕を西方に供給したことで知られる。このサーマーン朝を滅ぼしたのが (109)〔　　〕で，**ソグディアナがトルコ化し** (110)〔　　〕となった。(111)〔　　〕**高原の東，現中華人民共和国の新疆ウイグル自治区つまり** (112)〔　　〕**盆地（その大半が** (113)〔　　〕**砂漠，古代中国史の** (114)〔　　〕**）が** (115)〔　　〕となった。カラ＝ハン朝は (116)〔　　〕により滅亡した。

解答

(77) スンニー　(78) アイユーブ　(79) カイロ　(80) サラディン（サラーフ＝アッディーン）
(81) クルド　(82) トルコ　(83) マムルーク　(84) カイロ　(85) バイバルス
(86) フラグ　(87) 1291　(88) アッコン　(89) カーリミー商人　(90) アデン
(91) デュウ沖　(92) ポルトガル　(93) アルメイダ　(94) 1517　(95) オスマン帝国
(96) 丁零（ていれい）・高車（こうしゃ）　(97) 突厥　(98) ウイグル　(99) マニ教　(100) カラ＝ハン朝
(101) アラル　(102) シル　(103) アム　(104) ソグディアナ　(105) イラン
(106) サーマーン朝　(107) ブハラ　(108) マムルーク　(109) カラ＝ハン朝
(110) 西トルキスタン　(111) パミール　(112) タリム　(113) タクラマカン
(114) 西域　(115) 東トルキスタン　(116) カラ＝キタイ（西遼（せいりょう））

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【イスラーム文化】イスラーム文化はギリシア＝ローマ文化・イラン文化・インド文化など先進文化を摂取(せっしゅ)し融合した文化だ。世界文化として発展し中世ヨーロッパに流入した。**中国から製紙法・羅針盤(らしんばん)・火薬・活版印刷(かっぱんいんさつ)**などの，**インドから木綿・砂糖**などの西伝を仲介した。

固有の学問は『コーラン』に基づくアラブ人固有の学問分野のことで，**法学・神学・文法学・書記学・詩学・韻律学(いんりつがく)・歴史学**が含まれる。

外来の学問はギリシア・インドなどから導入された非アラブの学問で，**哲学・論理学・地理学・医学・数学・天文暦学・光学・錬金術(れんきんじゅつ)**などを指す。

(117)〔　　〕は (118)〔　　〕朝時代のイラン系の詩人で科学者。(119)〔　　〕の制定に参加。合理主義的悲観論と刹那(せつな)主義を**四行詩集**『(120)〔　　〕』に表現した。(121)〔　　〕は (122)〔　　〕朝のイラン系宰相で (123)〔　　〕（マドラサ）を (124)〔　　〕派の学問奨励のために開設した。(125)〔　　〕は同学院教授となりシーア派を批判した。後に (126)〔　　〕に傾倒し理論化した。スーフィズムとは内面的救いを重視し神との一体感を求めて禁欲的に修行する**イスラーム神秘主義**のことだ。

(127)〔　　〕は (128)〔　　〕朝時代のイランの民族詩人で，イラン建国からササン朝滅亡までの大長編叙事詩『**シャー＝ナーメ（王の書）**』というペルシア文学最高傑作の一つを著した。

(129)〔　　〕はアッバース朝期のイラン系イスラーム神学者で歴史家。年代記的世界史『預言者と諸王の歴史』を著した。

イル＝ハン国がイスラーム化した時の (130)〔　　〕のイラン人宰相 (131)〔　　〕は『**（蒙古(もうこ)）集史**』という遊牧民としてのモンゴル民族の回顧録(かいころく)を記した。これは超感覚的な宗教 (132)〔　　〕だったモンゴル族が精緻(せいち)な教則のイスラームに改宗して定住することにより民族性が消滅した時期に書かれた。

(133)〔　　〕出身の (134)〔　　〕はマムルーク朝に仕え，ティムールと会見した。『(135)〔　　〕』で**都市民と遊牧民との関係を中心に**歴史発展の法則性を論じた。

(136)〔　　〕出身の (137)〔　　〕（ラテン名**アヴェロエス**）はムワッヒド朝に仕えた哲学者・医者・法学者。**アリストテレスの著作に注釈(ちゅうしゃく)を加え中世西欧のスコラ哲学形成に影響**を与えた。

(138)〔　　〕のタンジール出身の (139)〔　　〕は旅行家。アジア・アフリカ・ヨーロッパを旅行し『(140)〔　　〕』を口述した。元末の中国を訪れた。また，シチリア島パレルモで (141)〔　　〕は『ルッジェーロの書』を著した。

(142)〔　　〕朝のブハラ出身の (143)〔　　〕（ラテン名**アヴィケンナ**）はイラン系の医者でありかつイスラーム哲学の完成者。『(144)〔　　〕』は 12 ～ 16 世紀の西欧医学で重用された。

イラン人の (145)〔　　〕はアッバース朝で活躍。**インド数学の影響をうけて代数学を発達させた。**

解答

(117) ウマル（オマル）＝ハイヤーム　(118) セルジューク　(119) ジャラリー暦
(120) ルバイヤート　(121) ニザーム＝アルムルク　(122) セルジューク
(123) ニザーミーヤ学院　(124) スンニー　(125) ガザーリー　(126) スーフィズム
(127) フィルドゥシー　(128) ガズナ　(129) タバリー　(130) ガザン＝ハン
(131) ラシード＝ウッディーン　(132) シャーマニズム　(133) チュニス
(134) イブン＝ハルドゥーン　(135) 世界史序説　(136) コルドバ　(137) イブン＝ルシュド
(138) モロッコ　(139) イブン＝バトゥータ　(140) 三大陸周遊記　(141) イドリーシー
(142) サーマーン　(143) イブン＝シーナー　(144) 医学典範(いがくてんぱん)　(145) フワーリズミー

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第 16・17 講　テスト①

1　後ウマイヤ朝の都は。
①　コルドバ
②　セビリア
③　グラナダ
④　カルタヘナ

2　ファーティマ朝に滅ぼされたチュニジアに成立した王朝は。
①　アグラブ朝
②　ターヒル朝
③　トゥールーン朝
④　サッファール朝

3　946 年にバグダードに入城した王朝は。
①　セルジューク朝
②　イル＝ハン国
③　ブワイフ朝
④　ホラズム

4　11 世紀にスルタンの称号をカリフから賦与された王朝は。
①　セルジューク朝
②　ブワイフ朝
③　サーマーン朝
④　アイユーブ朝

5　ニザーミーヤ学院で学んだ詩人は。
①　ウマル（オマル）＝ハイヤーム
②　フワーリズミー
③　ガザーリー
④　サーディー

6　アルハンブラ宮殿はどこにあるか。
①　マラケシュ
②　トレド
③　グラナダ
④　コルドバ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

7　アルハンブラ宮殿と無関係の事項は。

① レコンキスタ

② ナスル朝

③ 1492年

④ ゴシック様式

8　ムラービト朝と無関係の事項は。

① ガーナ王国

② マラケシュ

③ ベルベル人

④ カール5世

9　十字軍最後の拠点は。

① アッコン

② マサダ

③ ベツレヘム

④ ヘブロン

10　サーマーン朝の都は。

① ベラサグン

② ブハラ

③ メルブ

④ サマルカンド

11　ラシード＝ウッディーンの著作は。

① 医学典範

② 世界史序説

③ 集史

④ 三大陸周遊記

12　イブン＝バトゥータの出身地は。

① ウズベキスタン

② チュニジア

③ モロッコ

④ スペイン

第16・17講　テスト①解答

1　①	2　①	3　③	4　①	5　④	6　③	7　④
8　④	9　①	10　②	11　③	12　③		

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第 16・17 講　テスト②

1　トルコ系のセルジューク朝やモンゴル系のイル＝ハン国の支配下に栄えた文化は。
①　アラブ＝イスラーム文化
②　イラン＝イスラーム文化
③　トルコ＝イスラーム文化
④　インド＝イスラーム文化

2　イスラームの裁判官でオスマン帝国では地方行政も担当したのは。
①　ウラマー
②　カーディー
③　マドラサ
④　スーフィー

3　次のうち隊商宿をあらわす語は。
①　ミナレット
②　ミッレト
③　モスク
④　キャラバンサライ

4　次のうちイスラームの固有の学問ではない外来の学問を選べ。
①　哲学
②　法学
③　神学
④　歴史学

5　次の人物のうちガズナ朝時代のイランの大民族詩人は。
①　フィルドゥシー
②　ウマル＝ハイヤーム
③　ラシード＝ウッディーン
④　イブン＝シーナー

第 16・17 講　テスト②解答
1　②　　2　②　　3　④　　4　①　　5　①

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。